



学校だより

平成 28 (2016) 年 6 月 18 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

《 来週が 1 学期の最終授業日！ 間もなく冬休みです 》

6 月上旬に行われました授業参観並びに年次報告会には、お忙しいところ多数の保護者の皆様にご参加をいただきましてありがとうございます。また、学校評価アンケートにも、ご協力をいただきありがとうございます。後日、学校だより紙上で、学校評価結果の概要を報告いたしますのでよろしくお願いたします。

今学期は 4 月 9 日から始まり、11 回の授業日となります。子どもたちは、担任の先生やクラスの友達にも慣れ、そして、学習する教科書にも馴染んできたころかと思えます。

先日、小学校に入学して 2 ヶ月ほどの 1 年生の授業を、参観する機会がありました。ちょうどその時は、子どもたちが教科書に書かれている文字を、心をこめて丁寧に、用紙に清書している場面でした。どの子も先生の話をよく聞いて、椅子に正しく座り、書く姿勢を整え、鉛筆を正しく持って書いておりました。また、子どもたちが発言・発表するときは、必ず手を挙げて、先生に指名されてから発表をしていました。

このように、1 年生の時から集団で学習するルールやマナーを繰り返し指導することで、子どもたちが学習のルールやマナーをしっかり身に付けられるようにします。子どもたちは、先生や友達の話最後までしっかり聞くことで、日本語で考え、発表する力を育てることができます。1 年間の指導が実り、子どもたちの心が磨かれ、輝いて、新 2 年生になることを期待しています。

冬休みは 1 ヶ月ほどありますが、この休みの機会に、今まで家庭学習で充分に取り組むことができなかつた調べ学習、読書、作文や報告文、1 学期の学習まとめ等を行い、日本語の学習言語を豊かにする取り組みを推進されますようお願いいたします。

《 学習言語を育てる② 》

学校だより 5 月号では、「日本語の学習言語を育てる①」として、江口俊昭氏（前ロンドン補習授業校校長）のインタビューを紹介しました。今月号では、その続きとして、学習言語を育てるための取り組みについて紹介します。

本補習校に通う子どもたちは、普段は現地校に通いながら、週末には日本の子どもたちが毎日学んでいる膨大な内容を、39 授業日、156 授業コマ数で学んでいます。本校の子どもたちは、世界の補習校（208 校）に通う子どもたちと共通した悩みがあります。学ぶ教科に限りがあり、授業の進むスピードは国内の 2~4 倍の速さとなり、知識や技能の習得が追いつかないこともあります。教室の学習と家庭の学習が 5:5 で統合されて、初めて子どもたちの学力が保証されることとなります。

- ・「補習授業校は、家庭学習の成果を持ち寄って、集団で学ぶところなんです。勉強を教えるというより、学習のサポー

はじめに

本校は、ニュージーランドの南島クライストチャーチにあり、補習授業校として十九年目を迎える。小・中・高十三校に附属幼稚園三学級を併設し、子どもの総数二四〇人、教職員十九人で教育活動にあたっている。授業日は三十九日、小一から小四までは国語三コマ、算数二コマ、小五から中三までは国語二コマ、算数（数学）一コマ、社会二コマで、合計一五六コマの時間でやっている。本校に通う子どもたちは、駐在員家庭や国際結婚家庭の子どもたちで、日本語を学ぶ言語環境はさまざまである。子どもたちが現地校へ入学するようになると、家庭内で日本語を意識して使いつつ、子どもたちの会話から日本語が聞く間に消えていくのが現実のようである。

本校の小一から中三までの学級編制は、日本国内の学級に基づき、駐在員家庭と国際結婚家庭の子ど

**校内研究をととして実践する
学び合い学習の授業**

——各教員による授業研究・研究協議

カンタベリー補習授業校
(ニュージーランド)

ひなまつり集会 小学部 5 年生が担当して、プロジェクトでひなまつりの由来を紹介（全校集会では、小学部 5・6 年および中学部の児童・生徒が学年持ち回り制で学期ごとの行事を紹介する）

もが混在した集団で構成されている。子どもたちが本校で学ぶ目的意識について、各家庭でどのようにとらえられているかにより、子どもの日本語に違いが表れていると思われ、本校の教育は指導時間が限られているため、基礎基本としての知識、技能の習得に力を入れている。そのため、教室学習と家庭学習が五対五で統合されることにより、子どもたち一人ひとりの「しなやかな学力」が身につくよう指導計画を立てている。

本校の教育目標は、以前より「学び合う喜び、高め合う喜びを身につけた、心豊かな児童・生徒の育成」を掲げ、具体的な教育活動として実践に努めてきた。

二〇一四年度校内研究（海外子女教育振興財団教育活動等奨励事業）では、研究テーマ「自ら考え、学び合う子どもをめざして「伝え合う力」を育てる国語科の授業」として、各学級で授業研究を行っ

**学び合い学習の
実践①**

「伝え合う力」を育てる
国語科の授業

▲『海外子女教育』5月号で、カンタベリー補習校の授業研究に関する記事が掲載されました。

お知らせ① 七夕集会

6 月 25 日（土）13 時からホールにて、1 学期の終業式に続いて、七夕集会在行われます。

保護者委員会で短冊を用意していただきました。折り紙等で七夕飾りを作って、願い事を書いた短冊と一緒に笹を彩りましょう。



トをして効果を高めるところ。ここを勘違いしないでほしい」

- ・「ことばの学びは一生もの。子どものころに複数の言語を身につけられるなんて、こんなに幸せなことはありません。英語圏で育てれば、あるいはインターナショナルスクールや現地校に入れば、自動的にバイリンガルになる、というのは甘いですよ。両方のことばで生活言語と学習言語を兼ね備えた、ほんとうの意味でのバイリンガルを目指すなら、それ相応の努力と勉強が不可欠です。親子共、覚悟が必要なんです。」
- ・「補習授業校でも、家庭学習でも、何をおいても国語を優先して……。ちょっと待ってください。算数・数学の重要性を忘れないでください。これを解くには、『親子』『合わせて』などのことばを理解したうえで、文の構造をきちんと読み取れないといけません。日本語でやり取りする算数が、どれだけ日本語で思考処理する力を養うのに役立つか。日本語が希薄な環境にいる子どもたちこそ、日本語で算数をちゃんとやってほしいのです。」
- ・「単純な計算問題は、どの言語でやっても同じ結果になる。だから、計算ドリルを大量にやって計算のスピードを上げることを目指すよりは、文章題や証明問題にじっくり取り組んで、数学的な思考力と問題文の構造を理解する方が、言語の発達の間からは望ましいことになる。」
- ・「子どもに、現地校の学習内容を日本語で説明してもらいましょう。翻訳することで学習内容を確認することになり、記憶も定着します。親御さんは『今日何を習ったの？日本語で話してよ』と、水を向けてあげてください。これは、日本語と外国語のどっちが強い場合にも有効です。」
- ・「みんな、補習授業校で出される日記や作文の宿題に悩んでいると思います。題材は、毎日通っている学校のことばでいいですよ。今日は何の勉強をしたか、何をしましたか。ただし、たんなる報告ではなく、感じたこと・考えたことを必ず書いてください。」
- ・「読書は、自分のペースでページをめくったり戻ったりできる紙の本がいいですね。その世界でどっぷり楽しんだら、ぜひそのストーリーの続きを、作家になりきって書いてみてください。」
- ・「日本の家族や友達などに手紙を書きましょう。考えながら手を動かすのはとてもいいトレーニングなので、手書きして、それをスキャンして送ればいいですね。イラストが添えられていると、おじいちゃんおばあちゃんも嬉しいでしょう。」
- ・「親が子どもの勉強を教えるというのは難しい。子どもも反発するし、ある程度学年が上がってくると、テクニカルな解き方をすることは手に負えなくなってくることもある。」
- ・「ママにもわかんないなあ、と言いながら、いっしょに机に向かってください。横で解説を日本語で読み、用語を確認しながら『ここはこうするんだって』とやってもいいんです。」「子どもたちが嫌いな漢字ドリルは、PCとスマホの生活に慣れた大人にとっても意外に難しい。リハビリのつもりでいっしょに取り組んでみよう。正答率をグラフや表にして、勝ち負けを競ってもいい。」「子どもが補習授業校の宿題をしている間だけでも、親もテレビやスマホから離れて日本の本を読むなど、日本的な学習環境をつくり出してみてはどうだろうか。」
- ・「保護者の迷いや悩み、失敗はあって当然です。人は学んで人になります。その『学び』のためにも、思考するためのことばを育むことだけは、心がけてほしいと思います。」

※ 上記掲載文の一部は、「学習するための日本語を育てる」『海外子女教育』P.15~P.24、2016年4月号、江口俊昭氏のインタビューから抜粋しました。『海外子女教育』は、補習校図書室で閲覧可能です。

お知らせ② 全校写真・クラス写真撮影

2学期第2週、7月30日(土)13時から、全校写真およびクラス写真を撮影します。

当日はできるだけ遅刻・欠席のないよう、ご協力をお願いいたします。



お知らせ③ 保護者懇談会

8月6日(土)13時から、クライストチャーチ警察の女性担当官をお招きして、保護者懇談会を行います。

クライストチャーチに暮らす子どもたちの安全面や治安等、身近な話題についてオープントーク形式でお話いただきます。お問い合わせの上、是非ご参加ください。